

委員からの主な意見、回答

意見・質問等	回 答
<p>複層林の面積を増やす計画となっているが、上層木を伐採・搬出すると下層木の損傷が考えられる。国では、搬出方法をどのように考えているか。</p>	<p>現在、国有林では、上木と下木の上下式の複層林ではなく、モザイク状、帯状に林齢の違う林分の森林を配置する複層林を造成しているところであり、従って、上木の伐採時に下木を傷めることは少なくなる。また、現在ある上下式の複層林は、モザイク状、帯状のものに移行させる検討をしている。</p>
<p>森林を主伐・再造林する上で、獣害による影響というものをどのように考えているか。</p>	<p>特に、東中国山地などでは、シカによる被害が大きな問題となっており、そのような地域では、主伐を抑制して、間伐を中心とした施業を実施している。</p> <p>主伐を行う場合は、シカ防護柵や単木保護などの被害対策を講じて、確実な造林木保護を行う。被害防止の方法は、現地の状況に合わせて、最も効果的な方法を採用している。</p>
<p>計画されている主伐の計画量に対して、前計画の実行率が低いのに、新計画では計画量が増加している。実行することは可能なのか。</p>	<p>主伐の計画量は、公益的機能の発揮や計画的、長期的な資源管理のための総枠としての側面と木材の安定供給の側面がある。公益的機能の発揮、資源管理の観点からは、計画量を下回ったとしても、大きな支障は無いと考えるが、木材の安定供給の観点からは、目標数量を大きく下回することは好ましくないため、実行率の向上に取り組んでいるところ。</p> <p>なお、主伐の計画量については、計画期間内に伐採する可能性がある数量を、予め全て計上するため、実際には、分収造林の契約延長や立木公売での不落等により、伐採を行わないものが一定量発生することは見込んでいる。</p>
<p>一貫作業システムについて、今後も増やしていく方向か。</p>	<p>一貫作業システムは、伐採後、直ちに植栽をすることで、確実な再造林につながるほか、地拵え作業が省略できるなど造林の低コスト化の大きな柱ともなっているため、引き続き推進していく。また、林地未利用材の有効活用が図られるような販売方法にも対応していく考えである。</p>

意見・質問等	回 答
<p>シカ被害下での主伐・再造林、獣害の問題について、民間への情報提供、技術提供の支援をお願いしたい。また、シカ防護柵や単木保護による獣害対策について、効果の状況や効果的な設置方法等の情報提供をお願いしたい。</p>	<p>各森林管理署等において、シカの効率的な捕獲方法、捕獲したシカの処理方法、低コストでの造林地の保護、防護柵の設置方法等の現地検討会や技術講習会を開催し、民有林関係者に情報提供しているところ。今後、防護柵の設置効果やより効果的な設置方法等、さらなる情報提供に取り組みたい。</p>
<p>シカ被害が多い場所においては、主伐ではなく間伐を実施することであるが、その場合の機能類型、施業群の位置づけはどのようなか。</p>	<p>基本的な考え方として、水源涵養タイプの人工林を長伐期・多間伐とする場合は、長伐期施業群に区分することになる。また、高標高、多雪地などの生育条件の悪い場合や混交林へと誘導していく林分等は、非皆伐の育成天然林施業となるため天然林施業群に区分する。</p>
<p>シカ被害対策はどの計画区でも実施していく考えか。</p>	<p>当局管内は、北陸地方などの一部を除いて、シカによる被害が顕在化しているので、獣害対策として、防護柵の設置や委託・協定による捕獲等を実施している。</p>
<p>山地災害防止タイプではどのような施業を計画しているか。</p>	<p>森林の機能を維持・向上させるために、間伐、非皆伐施業又は複層林に誘導するための小面積皆伐を実施する場合がある。また、災害を誘発するリスクがあるような施業は行わない。</p>
<p>山地災害防止タイプの人工林で搬出する場合は、架線集材を検討しているのか。</p>	<p>山地災害リスクのある急傾斜の林分等については、国有林の地域別の森林計画で、搬出方法を架線に限定し、個所と面積を明示している。</p>